



# SASEBO WEEKLY

2006~2007年度テーマ **LEAD THE WAY** 率先しよう 2006~2007年度 R.I.会長 **ウィリアム・ビル・ボイド**

佐世保ロータリークラブ 会長・中島 祥一 幹事・富永 雅弘  
事務所・佐世保市島瀬町10-12 親和銀行本店内 TEL 0956-22-7720 FAX 0956-25-6323  
例会会場・佐世保玉屋8階 (毎週水曜日) TEL 0956-23-8181

平成 19 年 2 月 21 日

第 2,782 回例会

NO 31

《本日》会員数 83名 (出席免除会員 23名) ・出席 48名 ・免除者出席 16名 ・欠席 12名 ・ビジター 0名 ・出席率 77.10%

《前々回》会員数 83名 (出席免除会員 23名) ・出席 39名 ・メイクアップ 21名

修正出席率 100.00%

## 会長挨拶

会長 中島 祥一 君

本日は創立記念例会です。本来であれば乾杯をするのですが時節柄ひかえます。よろしくお祈りします。

春は曙。

やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

三寒四温の後のすばらしい朝の風景です。日差しは柔らかく、まさに春の訪れ。梅は咲いたが、桜はまだか日差し一杯の一日です。

今日はちょっと気障ですけど、気障は江戸のころ「柄のない肥柄杓で、手の付けようがない」と言われたそうですが、鼻をつまんで、我慢して聞いてください。

最近、サン・テグジュペリの「星の王子様」が話題になっています。世界80カ国で5,000万部以上出版され、60年にわたって読み継がれてきました。妻コンスエロとの愛の葛藤の日々が、大きく影響を与えたこの作品、何が詰まっているんでしょうね。

- ・人生における注意事項の啓蒙書
- ・ある特別な人が人生のメッセージを持ってきてまた空へ帰る。キリストを書いた。
- ・バラの花と王子様 大人の男女の恋愛

- ・人と人がつながる「絆を作る」「なじみになる」「飼いならす」「仲良くなる」
- ・自分自身を見出すこと
- ・人間であることは責任を持つこと

星の王子様は様々な方向へ考えられる不思議な本です。ぜひ皆様もお試しくください。この際子どもになった気持ちで、でも内容は超大人です。

## 例会記録

○ロータリーソング「我らの生業」

○ゲスト

地区交換学生 シイジャン 侍依仁さん

## 幹事報告

幹事 富永 雅弘 君

### 1. 2007~2008年度インターアクト年次大会

実行委員長 草野 幸子さん

2007~2008年度インターアクト年次大会お知らせ (予告)

日時/平成19年8月4日(土)~5日(日)

会場/矢太楼

ホスト校/活水中学高等学校IAC

(長崎出島RC提唱)

コ・ホスト校/長崎女子高校IAC

長崎女子商業高校IAC

長崎海星高校IAC

## 2. 佐世保北ロータリークラブ

会長 古賀 新二 君  
社会奉仕委員長 近藤 竜一 君

障害者優良雇用事業所及び優良勤労者表彰式のお知らせ

日時／2007年3月19日(月) 12:30～13:30  
場所／西沢カトリアホール

## 3. 佐世保東ロータリークラブ

会長 加島 栄紀 君  
実行委員長 渡邊 進 君

創立40周年記念式典及び祝賀会のご案内

日時／平成19年4月7日(土) 午後5時 点鐘  
会場／ハウステンボスJR全日空ホテル

## 4. 地区交換学生

松永 夕加さん

12月・1月報告書

## 5. 台南ロータリークラブ

季刊誌 2006冬号

佐世保RC公式訪問特集号

## 6. 会員名簿作製に関する確認票をセルフ

Boxに入れております。

## 委員会報告

### ■世界社会奉仕委員会 委員長 田中丸善弥 君

ラホヤロータリークラブ60周年記念式典に、現在会員及び家族の方を含め20名の方が参加を予定しておられます。出発は4月12日で、今月末までは追加の応募を受け付けますので、希望される方はよろしくお願ひします。

### ■国際青少年計画委員会 委員長 加納洋二郎 君

先週末、交換学生 侍 依 仁 (ジェニファー)さんが第3番目のホストファミリー宅に引っ越しました。

今度のホストは、現在、同じく当クラブより交換学生として台湾に派遣中の松永夕加さんのお宅です。

イー جانは日本に来て早6ヵ月を過ぎようとしております。現在では十分に日本語の基礎編をマスターできている様です。残りの6ヵ月を更に充実出来る様に、皆さまご協力をお願い申し上げます。

(2)

## その他の報告

### 図書館寄付の件

平成19年2月21日(水) 14:00、創立50周年記念事業の継続事業で、佐世保市立図書館に20万円を寄贈してまいりました。

美術全集など、高額な本の購入費用にあてるそうです。



## 慶 祝

出席委員会 山本 聡 君

### ○永年会員表彰

副島 正義 君 (36年)

曾我 勝宣 君 (23年)

### ○出席100%表彰

池田 豊 君 (26回)

橘高 克和 君 (20回)

遠田 公夫 君 (20回)

井手 孝邦 君 (18回)

下田 弥吉 君 (16回)

梅村 良輔 君 (15回)

長島 正 君 (14回)

石井 正剛 君 (14回)

円田 昭 君 (14回)

田中丸善弥 君 (14回)

木村 公康 君 (9回)

古賀 巖 君 (9回)

円田 浩司 君 (3回)

## ニコニコボックス

親睦活動委員会 有 蘭 良太 君

中島 祥一 会長、富永 雅弘 幹事

円田 昭 副会長

創立記念日に際し、高橋章文会員の卓話を楽しみにしています。

芹野 隆英 君

交換学生の侍 依 仁 (ジェニファー)さんが

先週の土曜日、日本に来て3番目のホストファミリーの家へ引っ越しを済ませました。

皆様のおかげをもちまして、私も無事3ヵ月間ホストファミリーを務めることができました。ありがとうございました。

曾我 勝宣君、橋高 克和君、井手 孝邦君  
石井 正剛君、池田 豊君、梅村 良輔君  
円田 昭君、長島 正君、田中丸善弥君  
古賀 巖君、円田 浩司君

永年会員表彰ならびに出席100%表彰ありがとうございます。



ニコニコボックス 本日合計 15,000円  
累計 673,000円

## ロータリー3分間情報

ロータリー情報委員会 松本 英介さん

「THIS ROTARIAN AGE」

ポール・ハリス 著  
米山梅吉 訳より



奉仕の理想の意味についてこのように書かれています。

「奉仕の理想とは、物の過程の最初に奉仕を置くものである。換言すれば、奉仕の理想を標榜する者は、受けるべき物質においてでなく、先ず与えるべき奉仕に着眼すべきである。物質を眼前に近く置けば見透しは困難となる。そしてその最も愚かな方法は金銭に集中することである」。

本書の最後に分かり易く述べてありますので紹介しておきます。

今日の実業は「乗るか反るか」の冒険事業ではなく、また吉凶占いを弄ぶものはほとんどない。科学的方法を欠く事業は競争に耐えるものではない。今日の企業はその科学的研究方法の整備した点において往時の大学にも勝っている。現代の大企業は科学的管理

の賜物として、従前より一層巨額の労働賃金と租税とを負担し、さらに分外の他の要求にも満足を与えている。

かくて実業の実践上には著しい変化がきているが、そこにはロータリーの強い影響が看取される。旧時代においては実業家の思うところはいかにして金を儲けるかの一事であったが、今日の実業家は多面的相関的問題に直面している。今日の実業家が成功するためには、その祖先よりも深遠にかつ迅速に考慮しなければならぬ。彼らは四方に風を受けて立たなければならない。顧客、使用人、競争者、仕入先、また公衆に対して正しくなければならない。このようなことは決して容易の業ではないが、しかも現代に頭角を現わす成功者の大部分は、かかる幾多の責任を是認し履行した結果によるのである。時代はいよいよ急変して実業の方策に挑戦してきた。その挑戦に対して実業は立派に立ち上がってきたのである。

最近よく企業の不祥事が報道されますが、我々はロータリー会員として、強く奉仕の理想の精神を普及したいものです。

## 卓話

『創立記念例会にちなんで』

会員 高橋 章文パスト会長



ポール・ハリスはロータリー創始後30年経った時点で「世界は常に変化している。ロータリーはこの世界と共に変わり成長してゆかねばならない。ロータリーの物語は幾度も書き換えられるべきである」と申しております。ロータリーの精神は不変でもその活動は環境の変化に応じて調整を図りながら限りなく発展することだと思います。

私は昭和38年7月の入会です。40年代中心の佐世保クラブについて少しお話をいたします。まさにロータリーアーカイブスで記憶違いもあるかと思いますがお許しください。

入会時に東洋人として初めてRI会長となったインドのラハリーさんの「内部に火をもや

せ、自身を発見せよ、力を伸ばせ」というターゲットを教えられ、その奥深さと新鮮さに強烈な刺戟を受けたものです。

当時は会員60～70名位であったかと思いますが、結婚祝いは奥様もご招待して夫婦で一緒にテーブルを囲んでお祝い致しました。会報も葉書大の紙で卓話をダイジェストにまとめるのに大変苦労しました。俳句の字を間違えて「意味が違ってしまうよ」とたしなめられたり、FM放送の話では専門用語が理解出来ず、締め切り迄の2日間はノイローゼになりそうでした。

ロータリーの奉仕の根幹である職業奉仕は当時もむずかしいものでした。RIから事例研究(ケーススタディ)を指示されたことがあります。事例研究の一助にと、昭和44年10月に2回に亘って中村一雄会員が「三扇工業の生い立ちと私の経営理念」と題してお話いただきました。石炭産業の斜陽化に伴い閉山した産炭地において、労使が悲壮なまでの努力で会社を造り上げ、全くの白紙からの出発で客の信用を得るため、良い商品の提供(品質管理の徹底)のご苦労はまさに職業奉仕の実践で、その後の会員による事例研究でも感激したものでした。

職場訪問として新しく出来た大村火力発電所を見学した後、嬉野の親和銀行さんの寮で懇親会を開き、千住雄造会員の佐賀弁まる出しの会話に大いに盛り上がり、若い会員もすっかり楽しませて頂いたことも印象に残っております。

私はいつも職業奉仕はわかりにくいとこぼしておりましたが、田中丸善三郎パストガバナーが「職業奉仕とは清く儲ける」ということだと簡明な言葉で教えて頂いたことは、今でも私の職業奉仕の基本と考えさせて頂いております。松下幸之助さんの「儲けることが何故悪い」にも通じることかもしれません。

#### 奉仕こそわがつとめ

国際奉仕については昭和46年8月、海上自衛隊の練習艦隊がブラジルサントス港を訪問した時、光園小学校の児童の児童画を託した先が北部サンベルナルド・ド・カンポRCで、友好クラブとしてその後4～5回交流がありました。言葉の問題もあり、昭和50年頃には自然と消滅していきました。

社会奉仕については、昭和40年代はまだ行政の福祉・環境なども現在ほど整備されず、私どもが奉仕する機会が残っておりました。個人奉仕として坂田、佐保、武井会員の奉仕事例が報告書に記されておりますが、クラブとしては不幸な子ども達の学園や身障者の施設の慰問激励に、特に高齢者の会員が熱心に奉仕され、汗を流した後の爽快さを喜んでおられたことが印象に残っております。

卓話について、昭和54年12月30日の藤井友市会員による「私の反省」と題しての卓話が大きな反響を呼びました。前年度のRI会長のターゲットが「隔たりを取り除こう」でありましたが、これに関する色々の物語から始まり、その熱意には私ども当時の若い会員こそが大いに反省した卓話でした。今一つは昭和43年西原会員の「私の目」と題しての卓話で、これをきっかけに西原愛盲基金に発展し、クラブの奉仕活動の核となった貴重なお話でした。

#### 意義ある業績賞

昭和46年8月22日の「離島平島における奉仕活動」に対してRI会長より意義ある業績賞を受賞

#### \*次回例会予告\*

卓話 原口 増穂 会員

(今週の担当 松尾 文隆)

### クラブ会報委員会

委員長	古賀 巖	委員	小川 洋・長富 正博
副委員長	隈元 勝則		松尾 文隆・町 孝